

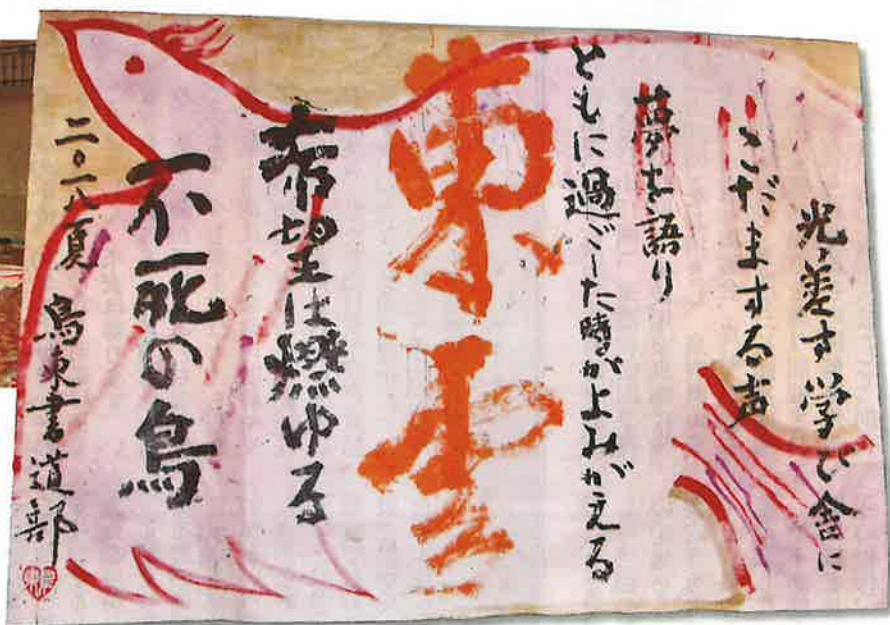
しのめ

発行◎鳥取県立鳥取東高等学校同窓会 東雲会
鳥取県鳥取市立川町5-210 〒680-0061
TEL 0857-22-8495
FAX 0857-22-8497
Eメール torie-h@mailk.torikyo.ed.jp
出版◎株式会社 サラト(名簿発行者)
兵庫県姫路市北条宮の町172 〒670-0948
TEL 079-284-1380
FAX 079-224-7746

題字 柴山抱海氏(特別会員)



ホテル・モナーク鳥取 (H30・8・4)



みません。
孫子の教えに「正々の旗、堂々の陣」があります。正々堂々の語源といわれています。正々の旗は高い目標、堂々の陣は、どっしりとした構えのこと。鳥取東高創立一〇〇周年も三年後に近づきました。

会長就任時に掲げた組織の強化、すなわち堂々の陣も、多くの方々のご協力で、地域支部も東京、京阪神、東海と発展そして再生が

この会報が、お手元に届く頃には、時は平成から令和に移り、慶祝の行事も滞りなく進んでいる頃でしょう。

令和の令は善いことを意味すること、新しい御代が平成同様に戦争のない平和な時代となりますこと、そして東雲会がより一層発展することを祈ってや



会長 常田

享詳(山13)

鳥取東高等学校同窓会東雲会

学縁 正々の旗 堂々の陣

鳥取県立鳥取東高等学校 創立百周年記念 同窓会会員名簿発行のお知らせ

令和2年6月下旬発行予定

価格 4,000 円(税込)

A 4判・約 830 頁



今年9月に名簿のご予約、掲載内容の確認をいただく等、会員名簿発行のご案内を発送する予定です。

会員のみならずには、名簿予約などお一人でも多くのご支援とご協力をお願いいたします。

鳥取東高の文武両道の伝統が脈々と受けつがれていることを実感し、鳥取東高の正々の旗を確信した次第です。

緒にやりたいと思っている。かつての硬派と軟派、性格も正反対だからこそ、協力すればきつといい成果が生まれそう



校長
尾室 真郷
(山29)

『100年の扉をひらく』

鳥取東高同窓会「しのめ」会員の皆様には日頃より温かいご支援をいただき、感謝申し上げます。

鳥取第二中学校の設立が許可されたのは大正11(1922)年6月20日。文部省(当時)からその通知が本校へ届いたのは6月23日でした。以来この6月23日を本校の創立記念日としています。文部省からの許可通知が届いたその日から数えて今年は97年。100年まであと3年。鳥取東高校は大きな節目を迎えようとしています。聞こえてくる100周年の静かな、しかし確かな足音に、およそ2万9千人からの期待や信頼を思ひ、その重さを改めて実感しています。在校生、卒業生、そして全職員で今この新しい扉を大きく開いてい

きたいものです。

AIの劇的な進歩や人口減少そして自然災害との共存など時代は急速に激しく変化しています。これからの時代を生きる生徒をどのように育てるべきか、今難しい局面を迎えていると言えます。大学入試においては40年間続いた共通一次・センターテストが現在の高校2年生の受験時から廃止となり、記憶や知識の量だけによる1点刻みで生徒の学力を計る時代が終わると言われています。ですが、このような高校と大学の接続の改革はまだまだ不透明です。いま目の前にいる生徒たちが活躍する20年後、30年後の世界がどのようなになっているのかを明確に描くことは難しく、不安は募ります。いま存在している多くの職業は消え去り、新しい職が誕生するとも言われています。少し前までは考えもしなかった、音声による家電の制御や文字の入力や翻訳、自動車の自動運転やアシスト、現金によらない支払い方法など、私たちの日常生活に直結するものが次々と急速に変化しています。さらに、それらの変化に伴ってライフスタイルや価値観も大きく変わりつつあります。学校において

は、過去の価値観にとらわれない、一つの価値を押しつけない、柔軟で時代に即応した教育が求められていることは間違いありません。

ただし、このように変化の激しい時代だからこそ、本校が建学より大切にしてきた「師弟同行・自由闊達」の精神という伝統の強みを生かしていきたいと考えます。この伝統の精神をあらゆる教育活動の基本理念に据え、血の通った人間教育を深めていくことが、過去に今にそして未来に、ますます重要になるでしょう。自分の夢を追うことが何事か社会貢献に繋がるような生き方を目指し、他者を親切にすることが自らを幸せにするということを実感できる教育を目指したいと思っております。

正解だけを覚える教育や偏差値による進路選択から脱却した「社会に貢献する精神を持つ」生徒の育成は97年という時間を湛えて流れる鳥取東高の伝統です。そして同時に、新しい100年の扉をひらく最も大切な鍵でもありましょう。どうか引き続き温かく、厳しく見守りくださいますようお願い申し上げます。

平成30年度 「東京東雲会」総会

細谷和夫(山22)

当会総会は、恒例となっている7月の第1土曜日、平成30年7月7日(土)に千代田区霞ヶ関の法曹

会館で、郷土鳥取から常田享詳同窓会長(山13回)、滝波和宏同事務局長(山24回)、母校尾室真郷校長(山29回)をお招きし、鳥取県東京本部、京阪神東雲会、鳥城会(鳥取西高同窓会)、翠陵会(八頭高同窓会)の来賓の出席を賜り開催されました。今年度総会の開催案内封書には、東京東雲会として、創刊

号となる会報「東京東雲」を同封し、当会の発足の経緯や生い立ちの記事や今年度の総会への出席案内等を掲載したこともあり、約100名の出席をいただき旧交を温めました。

第1部総会では、冒頭の校歌斉唱に続き林田英樹会長(山12回)からの挨拶、奥田真三幹事長(山23

回)から幹事会及び会計報告があり、新副会長に就任された本城一隆さん(山18回)から就任挨拶がありました。その後来賓代表として遠路出席いただいた同窓会常田会長と尾室校長よりご祝辞をいただき、2022年に母校が100周年を迎えること、母校の部活動の活躍ぶり等、母校の近況報告をいただきました。

第2部は、当会鈴木誠名誉会長(山5回)の乾杯で懇親会が始まり、お土産にいただいたあご竹輪、豆腐竹輪、鳥取スイカ等に舌鼓を打ち欲談となりました。懇親会企画として今年度は母校出身のピオラ奏者・棚橋恭子さん(山55回)とチェロ奏者・中嶋恵恵さん(山56回)お二人による「ミニコンサート」を行いました。お二人の演奏に出席者全員が演奏に陶酔し、用意



された料理の箸も止めてしまうほどのすばらしいひと時となりました。その後、恒例の福引き大会で大いに盛り上がり、お二人の伴奏により「ふるさと」を全員で合唱し、来年度(7月6日(土))開催予定の再会を誓って散会となりました。

以上

東海支部

平成30年度東雲会 東海支部活動報告

東海東雲会会長
中川 澄(山17)

H30・11・11(日)

東雲会東海支部総会・懇親会
東雲会副会長 川口 東洋輔氏、事務局長 滝波和宏氏、鳥取東高校校長 尾室 真郷氏を鳥取から来賓としてお迎えして開催いたしました。

昨年は尾室校長のご尽力により学生の方2名に参加いただき、計6名の参加でした。

新鮮な若人の参加で、会員一同元気をいただき、母校の話題などの話で大いに盛り上がりました。

今年度も、一部会員より日曜日なら参加出来るとの意見がありましてので11月10日の日曜日の開催と致します。1名でも参加者があれば開催いたします。

また、今年度こそ、会報の発行を実現したいと思っております。総会案内と同時に発送したいと考えています。

31年度は平成最後の年となります。新しい元号を迎え心を新たに

して頑張りたいと思います。
昨年度は、個人的にイベントが多くあり大いに楽しんだ1年でした。
今年度もいろいろ計画しています。大いに楽しんで生きていきます。そろそろ、終活も考えなければと思うこの頃です。



京阪神東雲会 第68回京阪神 東雲会総会・懇親会 当番幹事代表 中山素生（山35）

開催日…平成30年11月17日（土）
場所…中之島LOVECENTRAL
にて京阪神在住の旧制鳥取二中と鳥取東高等学校の同窓会である京阪神東雲会を開催いたしました。同窓会本部より清水副会長、滝波事務局長、東京東雲会林田会長、鳥取県関西本部長中原様の来賓を含めて73人が集いました。当番幹事は、山35が担当しまし



た。懇親会の内容については、「有志2分間スピーチ」「鳥の劇場インタビュー」「健康体操」「鳥取砂丘検定」「鳥取〇×クイズ大会」と盛り沢山で、校歌斉唱して終了。その後、中之島公会堂を背景に集合写真を撮り、最後に堂島川のクルーズを楽しみました。遠くは関東、鳥取からもご参加いただきありがとうございました。また、本都事務局からは、豆腐ちくわ、柿、梨、お酒の差し入れをいただきありがとうございました。

校を案内いただいてビデオ撮影。10月に「鳥の劇場」主宰の中島諒人・佳子夫妻（山35）にインタビュー取材。
当日、鳥取から整体院ほつと&ホット院長の福田義大氏（山35）にトーク&体操。山陰海岸ジオパークの安藤和也氏（山35）に鳥取砂丘検定〇×クイズ。同期の協力を得ながら和やかな雰囲気の中、大変楽しい時間を過ごすことができました。

鳥取市役所東雲会 鳥取市役所 東雲会報告 平成30年度会長 田中節哉（山28）



鳥取市役所東雲会は、鳥取市役所と水道局、市立病院、鳥取県東部広域行政管理組合の鳥取東高出身者で構成し、現在の会員数は約400名となっています。昭和57年の創設から今年で37年となりますが、会員相互の親睦と、クラブ助成、活動助成という形で継続してきた東高の生徒達の活動の支援を柱に活動

しています。
本会は母校の自由闊達な校風を引き継ぎ、年代を超えて会員同士の仲が良いのが特色で、毎年、年初の総会と夏季の練成会には100名を超える会員が出席し、大いに盛り上がるのが恒例になっています。今年度も、深澤鳥取市長、東雲会の常田会長、清水副会長、尾室校長先生をはじめ多くのご来賓にご臨席いただき、和気藹々とした雰囲気の中、盛大に開催することができました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。
さて、鳥取市は昨年4月に中核市に移行し、本年は市政施行130周年を迎えます。また、秋には新本庁舎への移転が予定されています。中核市となり、新たな権限が加わり行政サービスの幅が広がるとともに、分散していた庁舎が新本庁舎に集約され、これまで以上に質の高いサービスを提供することができるようになることを大変うれしく思っています。
本会の会員は、構成団体の中で職員数でも大きな割合に占めており、それぞれの持ち場で大いに活躍しています。私達は、鳥取市がさらに魅力あふれる都市へと飛躍していけるよう、チームワークを生かしながら一丸となって取り組んで参りたいと考えています。
最後に、2022年、東高は創立100周年を迎えます。100周年の事業の成功とともに、この事業を通じて東雲会のネットワークが広がり、さらなる母校の発展と東雲会各位のご発展につながっていくことを心より願っています。

平成三十年度 会務報告

★六月、同窓会報『しののめ』第十四号を発刊しました。

★六月二十二日（金）創立九十六周年記念式典が挙



初代校長 林 重浩氏の孫 宇野田祥子さん

行されました。初代校長、林重浩氏の孫の宇野田祥子さん（山10）に感謝状を贈呈しました。

★七月七日（土）東京東雲会総会に常田享詳会長（山13）、尾室真郷校長（山29）、滝波和宏事務局局長（山24）、十一月十一日（日）東海東雲会総会に川口東洋輔副会長（山12）、尾室真郷校長（山29）、滝波和宏事務局局長（山24）、十一月十七日（土）京阪神東雲会総会に清水昭允副会長（山6）、滝波和宏事務局局長（山24）の本部役員が参加し交流を深めました。

★八月四日（土）本部同窓会総会が開催され、京阪神当番幹事の中山素生氏（山35）をご来賓にお迎えいたしました。母校鳥取東高書道部の皆さんの『書道パフォーマンス』で会場が盛り上がりました。

平成30年度鳥取東高校同窓会 東雲会役員表

〔任期：平成30年8月～令和2年7月〕

会長	常田 享詳	(山13)
副会長	中村 忠文	(柏21)
顧問	安住 庸雄	(柏24)
顧問	清水 昭允	(山6)
顧問	川口東洋輔	(山12)
顧問	前田八壽彦	(山14)
顧問	上杉 榮一	(山17)
顧問	谷口 節次	(山19)
顧問	井上江美子	(山22)
顧問	油谷 博文	(山24)
顧問	米村 年博	(山24)
顧問	坂本 雄司	(山26)
顧問	上山 弘子	(山28)
顧問	森田 靖彦	(山30)
顧問	中島 諒人	(山35)
顧問	谷 英憲	(山41)
顧問	木村 憲司	(山47)
監査	林 良行	(山19)
監査	高垣 美恵	(山22)
名誉顧問	八村 輝夫	(山7)
顧問	榎本 武利	(山21)
顧問	深澤 義彦	(山22)
顧問	西垣 英彦	(山29)
顧問	尾室 真郷	(山29)
事務局次長	滝波 和宏	(山24)
事務局次長	木下 一朝	(山29)
事務局専任	村上 千春	(山39)

第6回 東雲会長杯 ゴルフコンペ 結果報告

橋本 和憲 (山16)

昨年10月7日(日) 鳥取カントリー倶楽部吉岡温泉コースにおいて開催されました。

台風24号25号の影響が心配されましたが、多少小雨模様の中で無事実施されました。

参加者も昨年並の36名と一回二回当時に比べ少なくなっていますが市民体育祭、又校区運動会等と重なった事を考えれば成功裡に終り参加された皆様には喜んでいただけた事と思います。柔道部OB、常連の愛好者の皆様のご協力での開催、参加者の年齢も60才以上の方のご参加が多く、皆様の呼び掛けでより多く、より楽しい同窓会コンペになるようお願い致します。

プレー終了後2フレストランにて優勝の谷口博さん(山20)はじめ入賞者への表彰が行われ懇親を深め次回での再会を誓いながらの解散となりました。

尚、参加者の集合写真はこのコンペの為に一念発起、ゴルフを始められ初参加の滝波事務局長に撮影していただいたものです。



第6回東雲会長杯 ゴルフコンペ 成績表

順位	氏名	OUT	IN	Total	Hdcp	Net
優勝	谷口 博	39	42	81	10.8	70.2
準優勝	橋本 和憲	43	42	85	13.2	71.8
3	山根 宏	42	47	89	16.8	72.2
4	安住 庸雄	44	41	85	12.0	73.0
【5位】	橋本 幸代	41	44	85	12.0	73.0
6	森下 和人	55	42	97	24.0	73.0
7	松本 泰尚	43	46	89	15.6	73.4
8	岸田 憲保	45	49	94	20.4	73.6
9	西田 源良	45	41	86	12.0	74.0
【10位】	安藤 嘉美	42	41	83	8.4	74.6
11	山本 和典	44	43	87	12.0	75.0
12	澤 直人	43	43	86	10.8	75.2
13	森本 茂	44	39	83	7.2	75.8
14	井関 顕人	46	47	93	16.8	76.2
【15位】	清水 昭允	48	50	98	21.6	76.4
16	衣川 豊	41	43	84	7.2	76.8
17	中崎 勇吉	43	45	88	10.8	77.2
18	大場 敏光	48	46	94	16.8	77.2
19	玉川 忠	53	42	95	16.8	78.2
【20位】	奥谷 学	47	54	101	22.8	78.2

平成最後の 同窓会八会式

卒業式前日の2月28日、常田享詳同窓会長(山13)、中村忠文副会長(柏21)、滝波和宏事務局次長(山24)、村上千春事務局員(山39)の出席のもと、山脈第70回生281名の入会式が行われました。会に先立って、同期の常任委員に選ばれた竹間君が、20年後の再会を呼び掛けていました。



同窓会報「しのめ」第14号の協力金納入の現況

同窓会員の皆様には、多大なご理解とご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。
第14号の協力金納入は次のとおりです。

★会員発送数	20,408冊
★協力金入金件数	1,504件 (前年比120件増)
★実質の協力金入金	2,656,723円 (協力金－振込手数料) (前年比308,503円増)
★必要経費(会報・封筒の印刷、郵送費等)	3,300,000円

★第11号では約77万円、第12号では約50万円の赤字で、少しずつ減少傾向にありましたが、第13号で再び増加し約95万円の赤字となりました。それを受けて『コンビニ用の振込み用紙』を導入しました結果、会員の皆様のご協力により約65万円の赤字となり、赤字幅が減少しました。創立100周年を控え、会報誌の益々の充実のため、同窓会員の皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。

2019年度 同窓会・東雲会定期総会及び各支部総会の日程について

東京東雲会総会ご案内

日時	2019年7月6日(土) 12:00～
会場	法曹会館 千代田区霞が関1-1-1 TEL 03-3581-2146
会費	一般会員：5,000円 学 生：1,000円

東海東雲会総会ご案内

日時	2019年11月10日(日) 12:00～14:30
会場	奥志摩 名駅中央店 別館 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目6-23 第3堀内ビルB1F TEL 052-581-6888 (名古屋駅より徒歩3分)
会費	男性：5,000円 女性：4,000円 学生：2,000円 初めての方：3,000円

鳥取東高等学校同窓会東雲会 定期総会・懇親会のご案内

日時	2019年8月3日(土)
役員会	13:30～
総 会	14:00～
懇親会	15:00～17:00
会場	ホテルモナーク鳥取 鳥取市永楽温泉町403 TEL 0857-20-0101
会費	5,000円

京阪神東雲会総会ご案内

日時	2019年11月16日(土) 12:00 受付
総 会	12:30～13:00
懇親会	13:00～15:30
会場	大阪キャッスルホテル 6階「千鳥」 大阪市中央区天満橋京町1-1 TEL 06-6942-2401
懇親会費	懇親会会費：7,000円 別途会員は、年次会費1,000円

出席者

上山 弘子
(山脈28回 株式会社泉コンサルタント
常務取締役／元鳥取県教育委員会委員長)

中島 諒人
(山脈35回 演出家・鳥の劇場芸術監督／
元鳥取県教育委員会委員長)

滝波 和宏
(山脈24回 鳥取東高等学校常勤講師・鳥
取東高等学校同窓会事務局長)〈司会者〉

同窓生 による 対談

実施日 2019年3月19日(火) 於 鳥取東高 同窓会館 事務局



(滝波)

本日はお忙しい中、対談にご参加いただきありがとうございます。最初に高校生活の思い出等について、上山さんからお話いただければと思います。

(上山)

思い出に残っているのは臨海教育、大山での高原教育、それと文化祭などです。臨海教育は、東浜海水浴場に行ってみんなで遠泳したことを覚えています。高原教育で大山に行った時、私は鳥ヶ山に登りました。結構急な山で、ロープが何かかけてあるところを一生懸命に登りました。

懸命に登り、やり切ったなというちょっとした達成感を感じた思い出があります。

(滝波)

中島さんの頃は、臨海教育とか高原教育はまだ継続していましたでしょうか。

(中島)

はい。ありました。僕は泳ぎが得意ではないので、砂浜で相撲とかしていました。2年生の時の大山登山では、何かキャンブした光景を覚えて

います。あと思い出深いのは、やはり東高祭です。模擬店でお好み焼きとか焼いたりしたことを覚えています。あとシンボル作りをしたことも覚えています。最後にフォークダンスする時にシンボルを焼いていました。今でも焼くのですか。あれは大変盛り上がりました。

(滝波)

実は、地球温暖化が問題になるにつれて、外で物を燃やしてはいけないということになりまして、シンボル作りが中止になりました。現在の尾室校長先生の下で、

一昨年あたりから1年生だけが作って燃やさないという条件で復活しています。他に何か思い出がありますか。

(中島)

そうですね。あとは、3年生の時に受験に向けていろんな先生が指導してくださったこととか、専攻科での思い出ですね。

(滝波)

文化祭から専攻科ということに話が移ってきましたが、進学指導、進路選択などで、何か思い出がありますか。

(上山)

実は私は進学しなかったのですが、私たちが3年生の時は、「就職クラス」というのが1クラスありました。男子生徒は6人ほどしかいませんでした。就職困難な時期ではなかったのですが、みんな比較的簡単に就職できました。

(滝波)

私の高校時代は、高校・中学で就職を希望する生徒が『金の卵』と呼ばれ、進学をしないということに対して、そんなに否定的な評価はなかったように思われます。

(上山)

はい、なかったですね。私は高校生時代あまり「ガリ勉」した思い出はありませんが、就職しましたら研修期間中にテストがあったり



と、いつでも勉強は必要だと思いました。鳥取東高で色々なことを経験しながら、友達と一緒に過ごせる時間は本当に貴重だったと今でも思いますね。

(滝波)

今度は中島さんにお話しいただきたいのですが、高校時代の頃、進学とか進路指導ということについてはどのようにお考えになっていましたでしょうか。

(中島)

家庭的な話をしますと、僕の両親は大学教育を受けていないのです。母親は中卒ですし、父親も高校中退みたいな感じなのです。親戚にもそんなに大学を出ている人間はいなかったのです。大学に行くというイメージはおぼろにしかなくて、進路選択において東高で色々な方が大学進学ということに向けてイメージを与えてくださったということは、僕の人生にとってかけがえのないサポートをもらったと思っています。



(滝波) 上山さんの場合は、ご自分の進路決定に大きな影響を受けた教員ですとか、友人、出会いとかはありましたか。

(上山)

そうですね。私は家庭の経済状況を考えると、まず最初から進学はないと思って3年間過ごしました。今ほど国公立に行かなくてはとか、有名校に行かなくてはというような雰囲気はなかったように思います。たまたま私は就職希望であったということであって、特に先生から就職がどうかと言われたこともありませんし、逆に就職クラスというのは、本当に焦りも何にもなく、みんな一緒なのだという感覚があったので、本当に

気持ちの上では楽な時間でした。

(滝波)

高校卒業後の話を伺いたいと思いますが、中島さんは、東大の法学部に進学されたと思うのですが、官僚になるとか、司法試験を受けて弁護士になるというような進路選択をされなかった理由について、何かお話しただけなのかなと思います。

(中島)

都会の進学校から東大とかに入る人は、先輩からアドバイスもあって、学生生活の過ごし方や将来の就職に関するビジョンを持っている人が結構いました。田舎の進学校から来た私なんかは、文系でも文学部という感じでもないし、経済と法律なら、どちらかという法律の方がおもしろそうだったので、とりあえず文科一類というところで法学に進みました。おっしゃるように、確かに友人の多くが公務員になつていますが、民間に就職している人間もいます。しかし、育った環境のせいか、サラリーマンになるというイメージはゼロでした。実は司法試験も受けました。4年生の時に1回受けたのですが、これはちょっと道のりが長いなと思って、それで演劇の道に進みました。意外と東大というのは演

劇が盛んで、近くに下北沢という場所があつて、若者演劇の一大拠点だったので。そのような環境の下で、だんだんと演劇もおもしろいなと思うようになりました。

これは後づけの理由になるのですが、法律を勉強するということと演劇をするということは、いかにも関係のないことのように思われるのですが、結局、演劇というのは複数の人間が、要するに権力をめぐって争うということになっているのです。それは家庭内の権力かもしれないし、具体的な將軍とか何とかみたいな権力かもしれないけれども、その人間同士の力のぶつかり合いを描くのが演劇なのです。そうしたときに、法律的な視点というか、法律を勉強した上で演劇を読んでもみると、見つかってくるおもしろさというのもあるって、意外とつながりなくもないなと、後になってよかつたなと思うこともあります。

(滝波)

もう少し中島さんのお話を続けさせていたきたいと思うんですが、私の卒業した大学の中には、演劇博物館と呼ばれる場所がありました。

(中島)

早稲田大学ですか？

(滝波)

はい。私の大学も結構演劇が盛んな所なのですが、大体演ずる側

の役者希望の人が多かったと思うのですが、中島さんは最初から演出する側をお選びになったのですか。

(中島)

大体は演ずる側から入ります。早稲田には『早稲田小劇場』というのが昔ありましたね。

(滝波)

はい。

(中島)

早稲田小劇場を主宰されていた鈴木忠志さんというのは私の演劇の先生なのです。その鈴木さんと出会ったということもすごく大きかったと思います。台本や戯曲のおもしろさをお客さんに向かって届けるには、どういう切り口で届けたらそのおもしろさが現代とつながるかみたいなことを考えるおもしろさを知る中で、演出というのがやりたいなと思いつながら、少しずつ勉強しました。

(滝波)

演劇をつくる側から、演劇に入っていけたわけですね。

(中島)

いえ、演劇の道に入ったのは演ずる側からです。



(滝波)

役者としての期間はどのくらいの長さだったのでしょうか。

(中島)

それは学生の間だけです。そんなに長くはありません。

(滝波)

現在、鳥取で『鳥の劇場』を主宰しておられますが、すぐそこへ移行されたのですか。それとも何か紆余曲折があつて鳥の劇場に至ったのですか。

(中島)

もちろん、もちろん紆余曲折です。

(滝波)

そのあたり、もし差し支えなければお話いただけますか。

(中島)

そこを話すとすごく長くなっちゃいますので、省いて話すと、職業についていることをおっしゃいましたけど、演劇というのが、なかなか職業になるという認識が一般の方にはありません。演劇というのは職業としてではなくて、ある種の趣味のようなものだと思われています。僕は、何とかその演劇という自分を自分なりにおもしろさとか、社会的な、現代的な意味合いとかを自分なりに把握する中で、それを職業として誇れるような状況、社会的に多くの皆さんが、これは立派な仕事だねと言ってくださるような状況をつくりたいなと思うようになりました。

その後、東京から静岡に移りました。先程申し上げた鈴木忠志さんが静岡の県立劇場で芸術監督をおやりになっていて、そこにちよっといさせていだいて、いろんな勉強をさせてもらいました。その後2006年に、鳥取で演劇をやること決めて帰郷しました。その時、劇団として自分たちがやりたい作品をやるというだけではなくて、劇場という場をつくって、演劇の専門家集団があるということに地



(上山)

域に活力だとか教育だとか、いろんな形で貢献ができるというモデルをつくりたいと思いました。そういうことは、一般的に言って、元気がないとされている地域でのほうがおもしろい活動ができるのではないかと思ったのです。当時、鳥取以外のところともつながりはあったのですが、一番小さい鳥取というところはおもしろいかなと思います、それで鳥取県でやってみようと思いました。

(滝波)

今度は、上山さんにご卒業後のお話を伺いたいと思います。今回、女性として初めて対談に参加していただきました。東高をご卒業後、現在に至るまでのエピソードみたいなものをお話しいただけますでしょうか。

(中島)

ありがとうございます。今の上山さんのお話の中で「人は財産である」という言葉がありました。中島さん、演劇の世界の中ではないかがですか。

(滝波)

ありがとうございます。私の場合は、鳥取で演劇をやろうと思った時、恵まれていたと思うのは、一緒にやってみてやるよと言って実際に行動してくれた仲間とか、

ちよつと金の応援もしてやるよというような仲間がいたということです。一緒にやってくれる仲間や資金がなければできなかったもので、それができたというのは、本当にそういう仲間のおかげだと思っています。

それに対する感謝は、いつまでたっても忘れることができないものだと思います。それと同時に鹿野まで足を運んで見に来てくださる方々に支えられているというのを痛感しています。

(滝波)

学校現場に対して何かご提言がありましたら、中島さんのほうからお願います。

(中島)

「居心地のよさ」というのが、鳥取東高校のいいところだと言われているような気がします。子どもたち同士が仲がよくて、あるいは先生方との関係もよいというのはとてもすばらしいことだと思います。安心して学校生活が送れる、そして、周囲に対してもある程度の信頼感を持つことができるというところは、何物にもかえがたい宝物だと思います。ただ、そこで気をつけなければいけないのが、居心地がいいというのは、空間を閉めている感じですね。入り口を閉め、部屋を閉ざしていると中



の温度が一定に保たれて快適になるのですが、その居心地のよさと窓をあけて外のものを取り込むということの両立をどうやってしていくかということが、恐らく一番課題になるのだと思います。ただ、その居心地がいいということ、決して悪いことではなくて、居心地がいいから外に向かつて開いていこうというふうに思えるわけです。帰る場所があるということとはとてもいいことなのです。でも一方で、そこにいることで満足を感じてしまうと、高校生のような世代の皆さんにとっては、非常にもつたないことになるのではと思います。高校生はだんだんと自分がどういいう人間であるかとか、何が得意で何が不得意かというのを認識していく成長の発達段階だと思います。高校生ぐらい

で自覚している自分の能力なんて、自分の能力の中のほんの一部ですからね。一人一人の中には信じられないぐらい色々な可能性があると思います。ぜひ、外部とかかわることを恐れないで、先ほど上山さんも出会いが自分を育ててくれたとおっしゃっていました。が、いろんな出会いとか失敗とかを恐れずに、どんどん挑戦してもらいたいと思います。

(滝波)

ありがとうございます。それでは上山さんのご提言をお願いします。

(上山)

そうですね。生徒や子どもの自己肯定感が大事ということがずっと前から言われています。それと同時に、それを肯定してあげる親としての強さとか、周りの強さというの必要だと思っています。ただ何でもよいよ、やってごらんというだけが全てではないと思うし、バランスが難しいとは思いますが。子どもたちも成長しなければなりません。親としてもやはり色々と勉強しながら成長していく必要があると思います。

(滝波)

母校鳥取東高は3年後に創立100周年を迎えます。東高の現役生ですとか教職員、あるいは同窓生の皆さんに、それぞれのお立場から何か最後に述べておきたい

ことがありましたらお願いします。中島さんお願いします。

(中島)

僕は今の学校のことがそんなにわかっていないので、言うことが適切かどうかはわからないんですが、やっぱりどんどん新しいことに挑戦してもらえたらいいかなと思います。いろんなことを疑って、学校の校則だって疑えばいいし、学校のあり方だって疑えばいいし、そして社会のあり方も疑って、それを踏まえて、周囲に対しても投げかけをしてもらって、同年齢の人たちとも話をしたり、先生とも話をしたりっていうことをやってもらった方がいい。それから、その社会的な問いかけに対しては、大人の方から、何らかの形で、それはもしかしたら同窓会とかを通じて、何か子どもたちに答えられることとか対応できることがあればしてもいいかもしれない。

とにかく今のこの先の見えない時代の中で、社会に出ていくための、社会の新しい力として出ていくための、跳び箱の跳躍台に体重を掛けたみたいなきが高校生だと思えます。これから大学なり社会なりに出ていくわけだけれども、いろんな人とコミュニケーションをしようという、何とかな、話し合ったり疑ったりする



るっていうような力をしっかりとつけてもらったらいいかなと思います。何かこう与えられた状況の中で、とりあえずいい子にしてやり過ごそうっていうのだけは絶対にやめてもらいたい。

(滝波)

要するに、窓を開けたままで居心地のいいところに安住しないですねということでしょうか。

(滝波)

ありがとうございます。では、上山さん、どうぞ。

(上山)

人はいろんな性格の方がいらっしやいます。積極的に発言ができる人もいるし、そうじゃない人もいます。その中で、進む道はそれぞ

れ違うかもしれないけども、自分の信念は明確に持っていてほしいなと思います。だんだんに、子どもたちも優しい子どもたちがふえてきているように思うんですが、その中で、さっきから話がありまして、思い切った殻を破るというか、「部屋の障子」をちよつとでもあけて外の世界を見てほしいなど。同窓会に卒業と同時にみんなが入るんですけど、若いときは同窓会どころじゃない、自分のことのほうが大事で、全然そういうことにも興味はないのかもしれないけども、こうやって何十年も

(滝波)

ありがとうございます。

たつと、何か東高に通っていたというところが、何か自分の中の誇りになる部分もあります。東高いいな、東高大好きって思ってくれる人がずっといてくれたらいいなと思いますし、それから、こうやって同窓会のほうでいろんな企画をして、会報のほうで発信して下さっているのを、ぜひ見ていただいてずっと東高に関心を持ってほしいなと思います。



	H27	H28	H29	H30	H31
国公立大	165	199	132	144	155
私立大	407	349	251	319	344
短大	39	20	31	25	21
専修学校等	65	83	63	85	63
計	676	651	477	573	583

主な大学の合格者数

大阪大学	3	山口大学	5	慶応大学	1	佛教大学	5
筑波大学	2	香川大学	2	上智大学	2	立命館大学	3
埼玉大学	1	高知大学	3	東洋大学	3	龍谷大学	21
東京医科歯科大学	1	横浜市立大学	1	明治大学	2	大阪薬科大学	2
金沢大学	2	京都府立医科大学	1	立教大学	3	関西大学	12
静岡大学	3	大阪市立大学	1	早稲田大学	2	関西外国語大学	4
奈良女子大学	1	大阪府立大学	3	京都産業大学	48	近畿大学	30
鳥取大学	49	兵庫県立大学	2	京都女子大学	6	甲南大学	3
島根大学	24	公立鳥取環境大学	6	京都薬科大学	3	神戸学院大学	20
岡山大学	9	岡山県立大学	3	同志社大学	2	鳥取看護大学	6
広島大学	7	下関市立大学	4	同志社女子大学	4	広島修道大学	5

平成三十一年度 入試の状況

平成三十一年度入試は、二年後に新テスト（共通テスト）が導入されることや私立大学の定員厳格化の影響もあり、国公立立大学ともに厳しい入試が予測されました。そんな中、本校生徒は着実に力をつけ、良好な成果を残してくれました。公務員（警察・消防・

平成三十一年度入試は、二年後に新テスト（共通テスト）が導入されることや私立大学の定員厳格化の影響もあり、国公立立大学ともに厳しい入試が予測されました。そんな中、本校生徒は着実に力をつけ、良好な成果を残してくれました。公務員（警察・消防・

県職・市職等）についても良く努力し、すべての生徒が目標としていたところに合格することが出来ました。

なお、過去五年間の合格者（現役・過卒の合計）の状況及び主な大学の合格者数は左の表の通りです。

大きなチャレンジ

《永久保存版》を目指して！

P T A文化広報部部長 大野 弥生

「鳥東高通信」をどう変えれば読み手の皆さんに興味を持ってもらえるか？東高時代の思い出の通信。大人になってもページを開けばあの頃の自分。あの頃の友達、あの頃の先生にすぐ出会える永久保存版の通信を作りたい！そんな大きなテーマを掲げて行き着いたところは簡単！私達文化広報部員（いわゆる保護者）が読みたい物を作ろう！だった。

主役は全ての人。できる限り大勢の生徒、保護者が紙面に登場することを第一に考えた。今の時代、写真が無ければ話にならないと《写真班》を結成しあらゆる場面を撮影。撮りためた写真は数千枚を超える。

毎号、完成まで並大抵な道のりではなかったしドタバタ珍道中な場面もあったけれど、笑顔でただただ一生懸命で一途な文化広報部のチャレンジでこの通信を作ることができた。

携わって頂いた全ての人に感謝致します。



【各種大会】

部 名	大 会 名	種目・成績等	備 考
バスケットボール	中国高等学校選手権大会鳥取県予選会	男子優勝	中国大会出場
ソフトテニス	鳥取県高等学校ソフトテニス新人戦	男子団体3位	中国大会出場
	鳥取県高等学校選抜ソフトテニス大会	男子団体2位	中国大会出場
陸上競技	鳥取県高校新人陸上大会	男女個人9種目入賞	4種目中国大会出場
テニス	鳥取県高等学校テニス選手権	男子シングルス・優勝、男子ダブルス・準優勝	中国大会出場
	鳥取県高等学校テニス新人戦	男子シングルス・優勝・ベスト16、男子ダブルス・準優勝、女子シングルス19位	中国大会出場
サッカー	全国高校女子サッカー選手権大会鳥取県予選会	準優勝	
バレーボール	鳥取県高等学校バレーボール新人大会	男子4位	中国大会出場
ビームライフル	鳥取県高校新人戦	男子個人入賞4種目	中国大会出場
弓道	鳥取県高等学校弓道新人戦	女子団体2位 個人優勝3種目	中国大会出場
卓球	中国高等学校卓球選手権大会鳥取県予選	男子団体8位	中国大会出場
		男子個人ダブルス・ベスト8	中国大会出場
		女子個人シングルス・ベスト4	中国大会出場
水泳	鳥取県高等学校新人水泳競技大会	男子団体総合優勝、入賞19種目（優勝4種目）	中国大会出場
		女子団体総合優勝、入賞14種目（優勝1種目）	中国大会出場
書道	席上揮毫大会	個人最優秀賞（県1位相当）	
	県高校書道展	個人3名・連盟賞 個人5名・奨励賞	全国高総文祭出品

平成二十年度 部活動報告

桐林 一広 (山50)

鳥取東高校は「学習・部活動・学校行事の三つを全力で追いかける」のもと、多くの生徒・職員がともに日々精進しています。昨年度も多くの部が「EAM」鳥取東一丸となって臨んだ県総体などにおいて活躍をしました。

文化庁では、書道部3年の石原祥子さんが全国大作書道展において、最も高い評価を受け、文部科学大臣賞を受賞するという快挙を収めました。北原白秋の『お祭り』という題材を、縦240cm×横540cmの紙面に、神輿がだんだんと近づいてくる躍動的な構成で表現しています。また、放送部が今年度も全国高総文祭に朗読部門で出場、NHK杯全国高校放送コンテストにも団体出場を果たしました。さらに、将棋同好会では、1年の澤田涼風さんと西尾愛花里さんが全国高総文祭に出場しています。

県総体後に行われた中国大会では、演劇部が会長賞、吹奏楽部が銅賞を獲得しました。運動部では、柔道部、ボート部、男子テニス部、水泳部が、昨年に引き続き全国大会に出場を決め、また創部間もないビームライフル部が初出場するなど健闘しました。

県総体は、先に紹介した部活に加え、1位通過した女子サッカー部や、上位通過した陸上競技部、男女ソフトテニス部などの中国大会での健闘が光ります。また、上位進出した男子バスケット部など多くの部が、仲間とともに涙を流し、これまでの努力を称えあいました。

チームライフル部



目優勝、個人で1種目優勝、女子は個人で1種目優勝と成績を残しました。

県新人大会では、男子テニス部2年の橋川蒼生君がシングルス優勝、柔道部男子団体2年連続優勝、個人戦3階級制覇、水泳部男女ともに総合優勝、男子バレー部、弓道部男子など中国大会へと駒を進めました。

その他にも県総体・県新人大会等での上位入賞や中国大会へ数多くの部が出場し、学校全体に活力を与えてくれました。また、学校内外において、多くの生徒が挨拶・服装・礼儀などを大切にする姿がみられ、学校全体に締めある雰囲気を作ってくれています。

前にも記載しましたが今年度よりビームライフル部が設置され、本校の部活動に新風を吹き込んでいます。

各部が互いに切磋琢磨し、刺激し高め合い、大会結果を讃え合うなど、そうしたプロセスの中で、本校の校風である「子弟同行」が実践され、「EAM」鳥取東として前進し続けることを今後も願っています。

近年、県外大会で同窓会の皆様の声援を受けることが多くなりました。全国大会等の日程・会場を、本校ホームページにでも随時お知らせしています。近隣で大会が開催される際には、ぜひ足を運んでいただき、後輩たちをお声の届くところで応援していただければ幸いです。

【全国大会】

部 名	大 会 名	出場種目(成績)等
柔 道	全国高等学校総合体育大会	男子団体、男子個人60kg級・90kg級・100kg級・100kg超級、女子個人78kg超級
	全国高等学校柔道選手権大会	男子団体、男子個人81kg級・無差別級
テ ニ ス	全国高等学校総合体育大会	男子シングルス
	国民体育大会	男子団体付クオドルプル(準決勝進出)
ボ ー ト	全国高等学校総合体育大会	少年男子団体付クオドルプル(準決勝進出)
	全国高等学校選抜ボート大会	男子団体付クオドルプル(21位)、女子団体付クオドルプル(16位)
水 泳	全国高等学校総合体育大会・日本高等学校選手権水泳競技大会	男子個人1500m自由形、男子個人100m平泳ぎ・200m平泳ぎ(14位)
	国民体育大会	男子個人200m平泳ぎ
ビームライフル	全日本JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会	男子200m平泳ぎ(3位)、男子100m平泳ぎ(4位)
	全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会	少年女子立射40発、少年男子立射60発
放 送	全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会	ビーム・ピストル少年女子40発競技(14位)、10mエア・ライフル少年女子40発競技(23位)
	NHK杯全国高校放送コンテスト大会	テレビドキュメント部門
書 道	全国高等学校総合文化祭	放送部門朗読
	全国高校生大作書道展	個人・文部科学大臣賞(全国1位:43校272点中)
将 棋 同 好 会	全国高等学校総合文化祭	個人2名
	全国高等学校文化連盟将棋新人戦	個人

【県高校総体】

部 名	出場種目・成績等	備 考
陸 上 競 技	男女で入賞10種目(男子円盤投げ・準優勝)	中国大会出場
駅 伝 競 走	男子4位・女子4位	中国大会出場
バスケットボール	男子3位	*
テ ニ ス	男子団体準優勝	中国大会出場
	男子シングルス準優勝	中国大会出場
ソフトテニス	男子シングルスベスト8	中国大会出場
	ダブルス3位2組	中国大会出場
サ ッ カ ー	男子団体準優勝	中国大会出場
	男子入賞4ペア	中国大会出場
ボ ー ト	女子入賞4ペア	中国大会出場
	女子優勝	中国大会出場
柔 道	男子団体付クオドルプル優勝	全国高校総体出場
	男女入賞上記以外5種目	全国高校総体出場
水 泳	男子団体優勝	全国高校総体出場
	女子団体3位	全国高校総体出場
放 送	個人入賞9種別(男子4階級優勝・女子1階級優勝)	5名全国高校総体出場
	男子入賞6種目	3名全国高校総体出場
水 泳	男子団体総合準優勝	中国大会出場
	女子団体総合優勝	中国大会出場
水 泳	男女団体種目優勝1種目	中国大会出場
	個人種目優勝8種目	中国大会出場
水 泳	男女入賞上記以外46種目	中国大会出場

【県高校総文祭】

部 名	出場種目・成績等	備 考
書 道	個人最優秀賞	全国高総文祭出場
吹 奏 楽	高校Aの部銀賞(3位)	中国大会出場
邦 楽	団体優秀賞(2位)	近畿高総文祭出場
演 劇	最優秀賞	中国大会出場
放 送	団体優秀賞	全国高総文祭出場
将 棋 同 好 会	団体3位	中国大会出場
	個人入賞2名(優勝・4位)	全国高総文祭出場

編集後記

大西 真理 (山35)

二度目の勤務として久しぶりに母校に帰ってきた。校歌がアレンジされた予鈴を生徒たちとともに日に8回耳にする。アッペンポの校歌に振り付けられた創作ダンスもでき、体育の授業で生徒たちが踊る姿を見た。東雲会総会で披露された書道部のパフォーマンスで、生徒たちは「光差す学び舎にこだまする声、夢を語り、ともに過ごした時がよみがえる。希望は燃ゆる不死の鳥と言葉を紡いだ。」東雲「と」の言葉が「が」つながらなかった我がクラスの1年生たちも、3年間の東高生活の中でかけがえのない多くの思い出をつくっていくことだろう。鳥取東高はまもなく100周年を迎えるが、校歌とともに母校に対する誇りと愛情が後輩たちの胸にもしっかりと刻まれることを願い、編集後記とする。